

厳選良問

～ 「若年性」 にあまりとらわれなくて ～

分野

医療・心理系分野

出典

介護福祉士試験(第30回-問題84)

問題

問題 在職中に若年性認知症 (*dementia with early onset*) になった人の家族に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 子ども世代に与える心理的な影響が大きい。
- 2 子どもが若年性認知症 (*dementia with early onset*) になる可能性が高い。
- 3 身体的機能に問題が認められないので、家族の介護負担は少ない。
- 4 家族の気づきによって早期発見されることが多い。
- 5 本人への病名の告知は家族が行う。

ポイント&解答

資格別試験対策

| 社会福祉士 | 精神保健福祉士 | 介護福祉士 | 介護支援専門員 | 保育士 |
|-------|---------|-------|---------|-----|
| ★ | ★★ | ★★★ | ★★★ | ★ |

注) ★★★…必ず学習!! ★★…できれば学習! ★…余裕があれば確認 ×…学習しなくてOK

試験対策ポイント解説

若年性認知症は、だいたい65歳未満で発症した認知症のことで、若年で生じた血管性認知症やアルツハイマー型認知症などの総称です。なので、一概に若年性認知症といっても、基本的には、一般的な認知症として捉えても問題ないことが多いです。もちろん、実行機能障害が先行して生じるなど、若年性認知症の特徴的なものもあるので、注意が必要ですが…。

この問題は、若年性認知症にかかわらず、認知症やがんなど、ある程度重い病気を親が患ったことを知った子どもは、何かしらの心理的影響があると判断できますので、難なく正解を選択することができるかと思えます。

選択肢3・4は、「若くて動ける認知症」という捉え方をすれば、「行動力がある分、介護負担が大きい」「うつ病などの他の病気・障害だと勘違いしてしまい、発見が遅れる」といった特徴があると、何となく連想できるかと思えます。

近年、ケアマネ試験や介護福祉士試験を中心に若年性認知症に関する内容が出題されやすくなっていますので、十分な対策が必要だといえます。

解答

1

